

# JICA 海外協力隊員 が 副知事 を 表敬訪問 しました！

令和7年7月14日(月)、独立行政法人国際協力機構(JICA)の海外協力隊員として出発する鈴木聡史(すずき さとし)さん、山崎紗弥香(やまざき さやか)さんの2名、帰国された森田千晴(もりた ちはる)さんが中村副知事を表敬しました。



## ● 出発隊員 ●

鈴木さんは、青年海外協力隊として令和7年7月末から令和9年3月末まで、パラオ共和国に派遣されます。配属先はペラウ・モデグゲイ高校で、理科教育に関する支援を行います。

理科の授業や実験のサポートを行って、生徒さんに科学へ興味を持ってもらい理解を深めるお手伝いをします。また、鈴木さんは現職の高校教師なので、パラオの高校と福井県の高校の生徒がオンライン授業でつながったら楽しいと考えています。(パラオは日本とほとんど時差がありませんね!)

現地は島にある高校なので実験器具も十分でないかもしれないけれど、手作りで作っていきたいと意気込みを語っていました。

鈴木 聡史 さん



山崎 紗弥香 さん



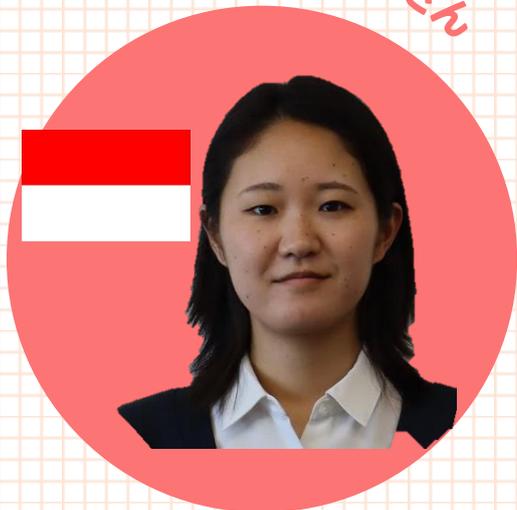
山崎さんは、青年海外協力隊としてタイに令和7年8月から2年間派遣されます。配属先であるサイヨークマニカン中高校は日本語教育充実を目指しており、今回初めて日本人の日本語教師として赴任します。

日本語の授業に加えて、日本語コンテストや日本語能力試験に向けての指導や助言も行います。将来、日本語を身に着けたタイの若者が日本に来るためのサポートをしたいとのことでした。

タイの人達に福井の魅力を伝え、そして福井に来てほしいと思っているそうです。

## ● 帰国隊員 ●

森田 千晴 さん



森田さんは令和5年7月から令和7年7月までの2年間、青年海外協力隊としてインドネシアへ派遣されていました。国立タンジュンサリ・農業高校に配属され、任地では、日本野菜の栽培について助言をしたり、日本野菜の試験栽培を実施しました。また日本語クラブの活動に参加し、福井県の方々から送られた浴衣や甚平を生徒たちに着付けました。みんな目がキラキラして楽しそうだったとのこと。

現地では、日本との社会的ルールや考え方の違いを感じることが多々あったそうです。日本にくるインドネシアの人も母国とのギャップに戸惑うことがあるだろうから、手助けしたいと話されていました。

中村副知事は3名に対し、「若い人材が世界へ出て行くと福井の認知度が高まる。現地でできたネットワークを大事にしてほしい。」と話されると同時に、出発される2名の方へは「くれぐれも身体に気を付けて活動してください。世界を見て、蓄えてきたものを戻ってから福井で広めてほしい。」との言葉をかけられました。



左から  
森田さん、山崎さん、中村副知事、  
鈴木さん、松石インバウンド交流課長